

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2016 年第 16 週
(4/18~4/24)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

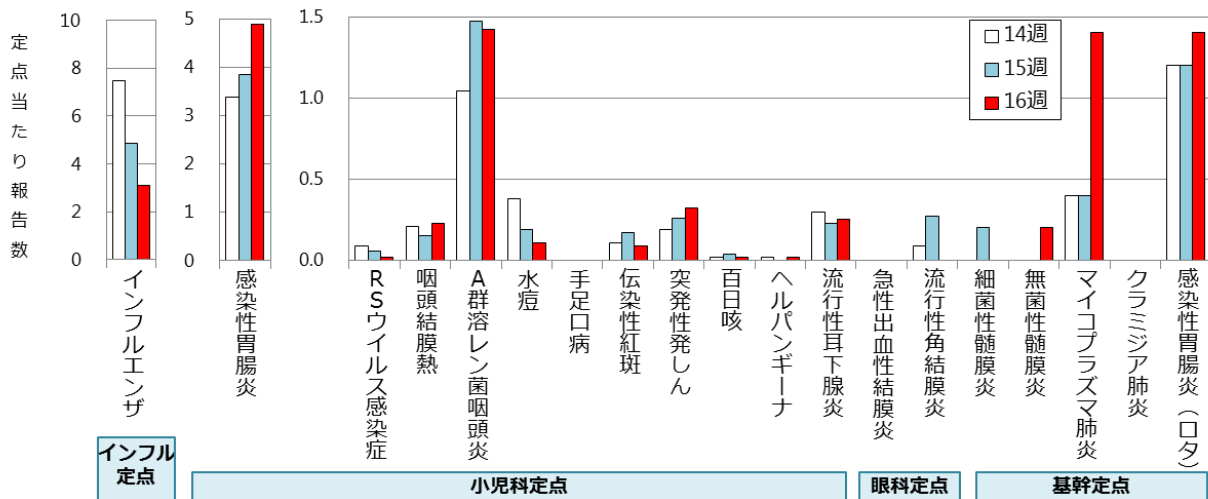
- ◇ インフルエンザは前週より減少しています。
- ◇ 関保健所管内で感染性胃腸炎患者が多く報告されています。
- ◇ 全国的に流行性耳下腺炎の患者報告数が増加しています。県内でも動向に注意が必要です。
→トピックス

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 8 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：レジオネラ症 2 例
- 5 類感染症：ウイルス性肝炎 1 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、
侵襲性肺炎球菌感染症 3 例、梅毒 1 例

● 2016 年累計

1 類感染症	なし	
2 類感染症	結核	129 例
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6 例
4 類感染症	A 型肝炎	1 例
	つつが虫病	1 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	2 例
	ウイルス性肝炎	1 例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例
	後天性免疫不全症候群	10 例
	デング熱	1 例
	レジオネラ症	3 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	24 例
	水痘（入院例に限る）	4 例
	梅毒	7 例
	播種性クリプトコックス症	1 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス

《流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）》

◆ 全国で患者数が増加しています。県内の動向にも注意が必要です。

昨年以降、全国的に流行性耳下腺炎患者報告数が増加しています。

県内では、現在のところ大きな流行はみられないものの、昨年終わり頃から患者報告数がやや増加しています。

県内報告患者の年齢は、5歳が最も多いですが、10歳未満に幅広くみられています。

流行性耳下腺炎は、国内で約4年周期で流行をくり返しており、県内では、前回2011～12年に流行がみられました。

今回は、全国の流行に遅れて県内の流行がみられていますので、全国で患者数が増加している現在の状況を踏まえると、今後の県内の動向に注意が必要です。

◆ ワクチンによる予防が可能です

流行性耳下腺炎は、飛沫感染または接触感染で伝播し、その感染力はかなり強いとされています。

流行性耳下腺炎にはワクチンがありますので、集団生活に入る前にワクチンを接種することが効果的な予防といえます。1歳から接種可能ですが、任意接種となりますので、保護者の方はかかりつけ医に相談して接種を検討してください。

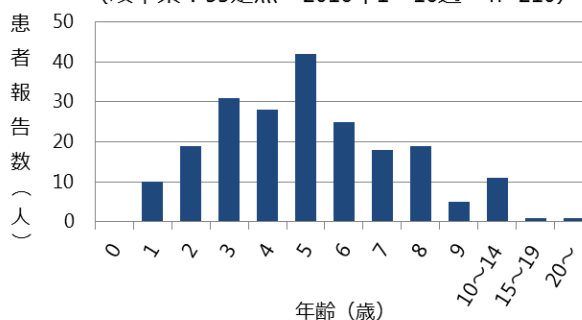
流行性耳下腺炎 週別患者報告数推移

(岐阜県：53定点、全国：約3,100定点)



流行性耳下腺炎 年齢別患者報告数

(岐阜県：53定点 2016年1～16週 n=210)



★ 流行性耳下腺炎とは

ムンプスウイルスの感染による耳下腺の腫れを特徴とする感染症です。2～3週間の潜伏期間の後、唾液腺の腫れ・痛みと発熱を主症状として発症します。通常1～2週間で軽快しますが、髄膜炎や精巣炎、卵巣炎などの合併症を起こすことがあります。中でも難聴は重要な合併症とされています。

★ 感染症法における取扱い

流行性耳下腺炎は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（岐阜県53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-kijun.html>

(保健医療課 HP)

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/>